

初級日本語学習者を対象とした単語学習の継続的評価の試み

桑原陽子

要旨

本研究では、入門期の日本語学習者を対象に、4ヶ月に渡って単語クイズを実施し、得点の分析を行った。クイズは、主として、絵や英語単語を見てそれに対応する日本語を筆記再生する形式であり、新出単語クイズと既習単語クイズの2種類が並行して行われた。調査の結果、新出単語と既習単語クイズの成績には差がないこと、新出単語クイズの得点変動は学習者間で似た傾向が観察されたのに対し、既習単語クイズの得点変動の傾向はそれぞれの学習者で大きく異なることが示された。結果から、新出単語クイズの難易度が高く、既習単語クイズによる復習の重要性が示唆された。また、新出単語クイズ得点の推移については、単語クイズの難易度や、文法学習項目の難易度と併せた考察を行った。

キーワード：単語学習，継続的評価，新出単語，既習単語，初級日本語学習者

1. 目的

第2言語学習において、単語の学習は基本的課題である。しかしながら、学習した単語を正確に保持しながら、それに加えて新しい単語を次々に覚えていくことは容易なことではない。苦勞して新出単語を覚えても、以前に学習した単語を忘れてしまっているという現象は、普通に観察されることである。したがって、単語学習を考える場合には、学習者が新しい単語をどのくらい覚えたのかという視点と、過去に学習した単語をどれだけ正確に保持しているのかという2つの視点が必要であり、カリキュラム上、それぞれに対応した単語クイズが実施されるべきではないだろうか。

このような視点にたつて、漢字の読みについて継続的に評価を行った研究として、桑原・玉岡・坂野（2004）がある。桑原他（2004）では、初級非漢字圏日本語学習者の漢字の読みについて、113日間に渡って1週間に1回クイズを行い、その得点の推移について分析を試みた。分析対象としたのは、新出漢字と既習漢字の2種類のクイズの結果であった。その結果、新出漢字よりも既習漢字のほうが得点が低い傾向にあり、回を追うごとに得点差が大きくなっていくことが観察された。これは、学習した漢字の読みを保持しておくこ

とがいかに難しいかを示すもので、復習の重要性を示唆するものである。このような評価方法は単語学習にも援用できるであろう。

一方、クイズを学習の機会の1つと考えるならば、新出単語クイズを一回実施するだけでなく、併行して既習単語クイズを行い、ある程度の期間をおいてから再度出題することにより、記憶の定着を図ることができる。意味と音とを結びつけるには、意味から音へ、あるいは音から意味への検索(retrieval)を繰り返すことが必要であることは広く知られているが(e.g., Baddely, 1990)、さらに、単語を集中的に繰り返し学習する(massed repetition)よりも、ある程度の期間をおいて繰り返し学習する(spacing repetition)ほうがより長く記憶に残っていくことも、第2言語学習研究において明らかにされている(e.g., Nation, 2001)。そのような効果は記憶研究で「分散効果(spacing effect)」として知られており、それを単語などの学習プログラムに反映させることの重要性を示唆する研究もある(e.g., 水野, 2003)。したがって、同じ単語を繰り返し学習する機会を学習者に与えるという側面からも、既習単語クイズは意味があると考えられる。

本研究では、初級日本語学習者に対して、新出単語クイズと既習単語クイズの2種類を行った。単語クイズが実施されたのは、福井大学留学生センターの初級日本語クラスである。クイズはコース開始時からコース終了時まで、約4ヶ月に渡って実施された。

本研究の目的は、単語クイズの得点がどのように変化していくのか、学習者によって得点の変動にどのような違いがあるのかを探ることである。さらに、各問題によって、学習者の得点分布にどのような違いがあるのかについても探索を試みる。本研究では、以下の観点から分析を行う。

1. 新出単語クイズと既習単語クイズの得点差、得点分布の違い
2. 新出単語クイズと既習単語クイズの得点の変動
3. クイズ得点に基づく学習者とクイズ問題の分類

2. 調査

2. 1. 調査対象

初級日本語学習者5名（女性4名 男性1名）であった。国籍は以下の通りである。

メキシコ、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、モロッコ

留学生センターの初級日本語クラスに在籍し、2004年10月12日から2005年2月4日まで116日間に渡って文法クラスを受講した（うち2004年12月23日～2005年1月12日）。

日は冬休み)。授業は、月曜日から金曜日まで毎日2コマずつ、1週間に合計10コマ行われた(1コマ90分)。1名を除いて、来日前に日本語学習歴はなかった。

主教材として「みんなの日本語初級」を使用した。ほぼ2日(4コマ)で1課分の学習を終えるペースで授業を進め、コース中に第1課から第35課まで(第33課を除く)学習をした。学習者全員が学習の補助を英語で受けられるだけの英語力を有しており、授業では、必要に応じて英語による解説が行われた。

2. 2. クイズに使用した単語の選択

「みんなの日本語初級」の各課の新出単語から、クイズに出題する単語を10語ずつ選択した。単語は、教師の主観により生活上必要が高いと判断されたものが選択された。ただし、19課と20課、25課と26課は、教科書に掲載されている新出単語数が少なく、1課につき10語選択するのが難しかったため、出題単語数を減らした。19課と20課は2課分併せて12語であり、25課と26課は2課分で10語であった。(選択した単語は資料を参照のこと)

2. 3. クイズの方法

クイズの形式には、絵や英語単語に対応する日本語の単語の筆記再生を選択した。ただし、第1課から第7課までは、ひらがながまだ定着していなかったため、筆記による回答が困難であると判断し、日本語の単語をいくつか選択肢として提示して、その中から適切な答えを選ぶ形式にした。また、学習の後半には具象性の低い単語(例: 人気、意見)が多くなり、絵を使用することが困難な単語が増えた。そこで、それらの単語については、文中の空欄にあてはまる適切な単語を、選択肢の中から選ぶ形式のクイズを作成した。実際に使用したクイズは、資料を参照のこと。

新出単語クイズは、2課ごと(20語ずつ)に、当該課の学習終了直後に実施した。既習単語クイズは、新出単語クイズと同時に行われた。すでに終了している新出単語クイズの中から20語を選択し、新出単語クイズと同じ形式で出題した。例えば、3課と4課の新出単語クイズと同時に、1課と2課の単語を既習単語クイズとしてもう一度出題し、5課と6課の新出単語クイズと同時に、1課から4課までに10語出題された単語40語の中から20語を既習単語クイズとして使用した。すなわち、既習単語クイズは、クイズの回を追うごとに10語出題範囲が広がっていくことになる。既習単語選択の際には、新出単語クイズで正答率の低かったものを優先的に選んだが、できるだけ万遍なく選択するように心がけた。

初回の第1、2課のクイズ(2004年10月21日実施)から、第34、35課のクイズ(2005

年2月2日)まで、新出単語クイズは計17回、既習単語クイズは計16回行われた。新出単語として選択された単語は、合計322語であった。

また、「みんなの日本語初級1」（1課から25課）の学習終了後、「みんなの日本語初級1」全体の単語クイズを行った（2004年12月24日実施）。問題は、各課の単語クイズに出題されたものから選択された。出題された単語は83語であった。さらに、コース終了後に、「みんなの日本語初級」1課から35課まで（33課は除く）全体の単語クイズを行った（2005年2月4日実施）。出題された単語は322語中143語であった。

3. 分析と結果

5名の学習者全員が全てのクイズを受けているので、学習者全員を分析対象とした。単語クイズの正答1つにつき1点を与え、新出単語クイズ1回（2課分）、既習単語クイズ1回をそれぞれ20点満点とした。ただし、19・20課、25・26課の新出単語クイズ得点は、合計得点が20点に満たないため分析対象から除外し、それらと同時に行われた既習単語クイズも除外した。その結果、新出単語クイズ15回分、既習単語クイズ14回分を分析対象とした。各学習者の新出単語クイズ及び既習単語クイズの得点を表1に示す。

表1 各学習者の語彙クイズ得点

クイズ回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回			新出と既習の t検定の結果																			
クイズ実施日	10月21日	10月27日	11月2日	11月8日	11月12日	11月16日	11月19日	11月24日	12月10日	12月16日	12月23日	1月19日	1月25日	1月31日	2月2日																						
クイズ課	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	L12	L13	L14	L15	L16	L17	L18	L21	L22	L23	L24	L27	L28	L29	L30	L31	L32	L34	L35	平均	SD					
学習者A	新出(2課分)	20	20	20	19	19	19	17	15	15	11.7	16	16	15	16	8	16.45	3.36	t=1.06																		
	既習	-	20	20	18	20	19	18	20	19	20	14	12	15	11	17	17.36	3.13	n.s.																		
	新出(2課分)-既習	0	0	0	1	-1	0	1	-5	-4	-8.3	2	4	0	5	-9																					
学習者B	新出(2課分)	10	10	10	10	10	8	16	9	19	8	9	10	10	10	6	14.8	17.8	9	17	19	20	20	15	17.92	2.42	t=0.71										
	既習	-	20	20	18	17	19	17	13	18	18	17	17	19	13	16	17.14	2.03	n.s.																		
	新出(2課分)-既習	-	0	2	-3	-1	0	7	2	-4	-3.2	0	2	1	7	-1																					
学習者C	新出(2課分)	10	10	10	10	10	8	10	9	10	10	10	10	10	9	10	8	7	9.40	0.89	t=1.55																
	既習	20	20	20	18	19	19	20	18	17	19	20	19	18	20	15	18.80	1.42	n.s.																		
	新出(2課分)-既習	-	0	0	3	0	0	-1	2	0	-1	3	0	7	-1	0																					
学習者D	新出(2課分)	10	10	8	9	10	10	8	16	10	5	7	16	8	8	7	9	5	7.35	2.39	t=1.99																
	既習	-	20	17	20	14	15	13	16	16	10	16	10	5.4	15	15	13	19	12	14.89	3.83	+															
	新出(2課分)-既習	-	-3	8	0	0	0	-7	-1	-2	-9	-8.6	-3	0	-3	1	-5																				
学習者E	新出(2課分)	10	10	10	10	10	10	9	6	9	7	4	7	4	3	5	3	3	1	6.7	3.18	t=0.33															
	既習	20	20	20	15	16	11	7	10	6	7.7	16	20	2	20	11	13.45	6.07	n.s.																		
	新出(2課分)-既習	-	0	0	3.63	3.05	1.92	2.17	2.59	3.90	2.61	2.41	4.29	2.17	2.17	3.85	2.07																				
	新出と既習のt検定の結果	-	t=1.00	t=2.59	t=0.36	t=2.14	t=1.76	t=0.38	t=0.85	t=4.19	t=2.22	t=0.73	t=2.90	t=1.20	t=2.38	t=1.90																					

*p<.10 **p<.05

3. 1. 新出単語クイズと既習単語クイズの得点差

新出単語クイズと既習単語クイズの成績差について検討するために、t検定を行った。新出単語クイズは、2課分の合計点を使用した。また、第1回のクイズは新出単語しか実施していないため、分析の対象は第2回～第15回のクイズ得点とした。

まず、学習者ごとに t 検定を行った結果、どの学習者においても新出単語と既習単語のクイズ得点の間に有意な差はなかった。ただし、学習者 D は、得点差が有意傾向であり、既習単語クイズのほうが新出単語クイズよりも得点が高い傾向が示された ($t=1.987$, $df=13$, $p<.10$)。

また、クイズごとに t 検定を行ったところ、第 9 回のみ、既習単語が新出単語よりも得点有意に高かった ($t=4.19$, $df=4$, $p<.05$)。また、第 3 回 ($t=2.59$, $df=4$, $p<.10$)、第 5 回 ($t=2.14$, $df=4$, $p<.10$)、第 10 回 ($t=2.22$, $df=4$, $p<.10$)、第 12 回 ($t=2.90$, $df=4$, $p<.10$)、第 14 回 ($t=2.88$, $df=4$, $p<.10$) は、得点差が有意傾向であった。他の回では有意な差は見られなかった。

以上の結果から、新出単語と既習単語の成績には、ほとんど差がないことが示された。また、クイズごとの検定結果からも、新出、既習のどちらか一方が一貫して成績がよいという傾向は、全くないことが明らかとなった。

3. 2. 新出単語と既習単語のクイズ得点の推移

新出単語クイズと、既習単語クイズの得点が学習開始時から学習終了時までどのように変動しているかを分析するために、第 2 回から第 15 回までのクイズ得点を対象に、ピアソンの積率相関係数を算出した。

まず、同一学習者の新出単語と既習単語のクイズ得点の間には、いずれも有意な相関がなく、相関係数も $r=-.172$ から $r=.229$ の間で、非常に低かった。つまり、学習開始から 4 ヶ月間の新出単語と既習単語の得点の動きの間には、同じ学習者について見た場合、ほとんど関連がないと言える。

次に、学習者間の相関について述べる。新出単語の得点については、ほとんどの学習者の間に有意な相関が見られた。学習者 A と学習者 C ($r=.685$, $p<.01$)、学習者 A と学習者 D ($r=.584$, $p<.05$)、学習者 B と学習者 C ($r=.572$, $p<.05$)、学習者 B と学習者 D ($r=.733$, $p<.01$)、学習者 D と学習者 E ($r=.640$, $p<.05$) であり、比較的強い相関を示している。一方、既習単語は、学習者 B と学習者 D の間の相関が $r=.588$ ($p<.05$) で有意であるが、他の学習者間ではすべて有意ではなく、相関係数も低かった。これらのことから、新出単語クイズは、各学習者の得点と同じような傾向で変動しているのに対し、既習単語クイズは各学習者の得点の動きが大きく異なると言えよう。

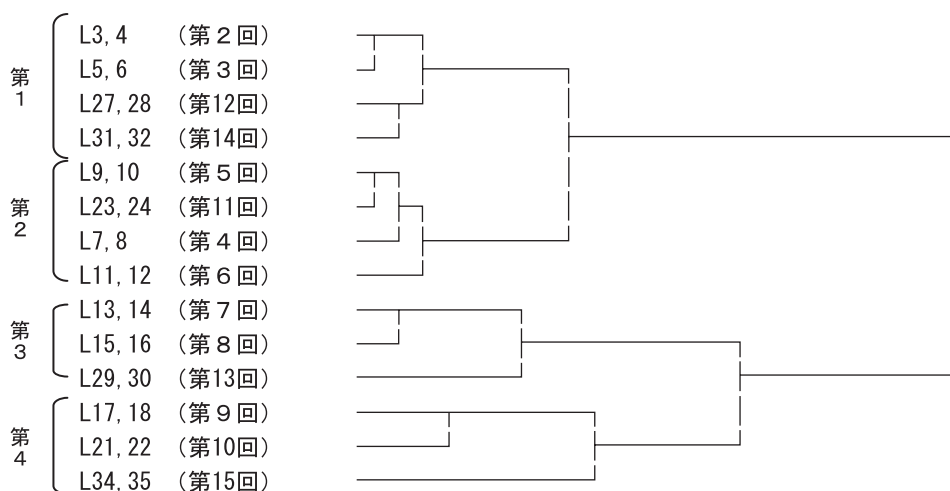
3. 3. 学習者とクイズの問題のクラスタ分析

まず、クイズの得点をもとに、5 名の学習者に対して、階層クラスタ分析を行った。そ

の結果、5名の学習者は、学習者B、学習者Cの2名と他の1名ずつの4つに分けられることがわかった。特に最も他の4名と異なるのは学習者Eであった。クラスタ分析の結果をふまえて、学習者の得点分布の特徴について、以下に記述する。

学習者Bと学習者Cは、得点の標準偏差（SD）が比較的小さいことから明らかなように、新出、既習いずれも得点の変動が最も小さく、ほとんどが15点以上に集まっている。5名の中では、安定して高い得点をとっている学習者であると言えるだろう。それに比べると、学習者A、学習者Dは、どちらも得点の変動が大きい。ただし、学習者Aは新出・既習の得点に差がなく、ともに比較的高い部分に集まっているのに対し、学習者Dは、学習者B、C、Aと比べると得点が全体的に下がっていることがわかる。特に、新出単語の得点が既習単語よりも低く、その差が他の学習者よりも大きいことが特徴と言える。これは、表1を見ると、学習者Dの新出単語クイズ得点が既習単語クイズ得点よりも高かった回が2回しかないことからもうかがわれる。最後に、学習者Eは最も得点の変動が大きい。特に、既習単語クイズ得点が他の学習者より低いところに集まっている。

次に、第2回から第15回までのクイズを分析対象として、得点をもとに階層クラスタ分析を行った。新出単語クイズの結果を図1に、既習単語クイズの結果を図2に示す。



注：右端の第1～第4はクラスタを4つに分類した場合のグループを示す

図1 新出単語クイズ問題のクラスタ分析結果

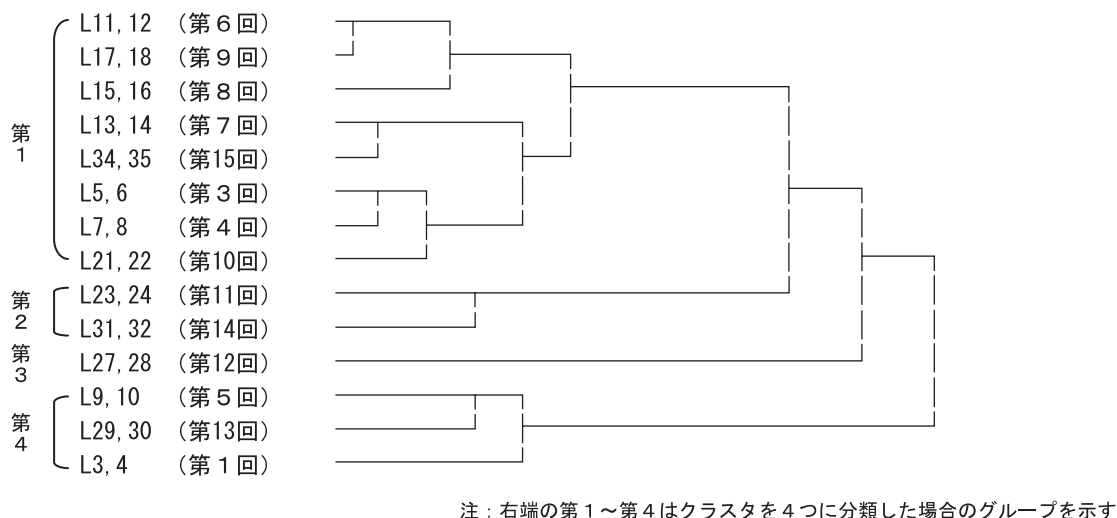


図2 既習単語クイズ問題のクラスタ分析結果

新出単語クイズは、大きく4つのグループに分けられた。まず第1は、学習者全員の得点が高いグループである。第2が、全体的に得点が下がるが全員の得点にそれほど大きな差がないグループである。第3は、第2グループよりも多少得点が低くなると同時に、学習者B、Cと他の学習者の得点差が大きいグループである。第4は、全体的に得点が最も低いグループである。さらに、この4つのグループは大きく2つに分けられ、第1、第2のグループと、第3、第4のグループにまとめられた。学習者全員の得点が比較的高めのグループと、得点が低くさらに学習者間の差が大きいグループである。

一方、既習単語クイズも、4つのグループに分けることが可能であった。しかし、新出単語クイズのクラスタと大きく異なるのは、各問題がより小さいクラスタに分かれていることであった。最も大きい第1のグループは、問題の半分以上を含み共通の特徴を見出しにくい。敢えて言うならば全体的に得点が低めのグループであると言えよう。第2は、得点が低く、学習者B、Dと他の学習者の得点差が大きいグループである。第3は、最も得点が低いグループである。最後は、全員の得点が高いグループである。

これらのクラスタを、時間軸をもとに解釈すると、新出単語クイズの場合は、得点の変動について次のような傾向がうかがわれる。まず、クイズ開始時は学習者全員の得点が高い。その後、第4回から第6回までは全体的にクイズ得点が下がる。次いで、さらに得点が下がる時期があるが、そこでは学習者間の得点差が大きくなり、高い得点を取る学習者

とそうでない学習者がはっきりと分かれる。次に第9回あたりから、学習者全員が全体的に得点が低くなる時期があり、その後、得点が全体的に上昇していく傾向が見られる。このような得点変動の解釈が可能になるのは、前項でも述べたように学習者間の相関が高く、全員が同じような得点の動きをしていることによる。それに対して、既習単語クイズの場合は、クラスタについて、時間軸をもとに何らかの傾向を見出すことはできなかった。このことは、相関係数による分析で、得点の変動が学習者間で大きく異なることが示されたことと一致する。

4. 考察

本研究の結果は以下のようにまとめられる。まず、ほとんどの学習者において、新出単語と既習単語の間に成績差が見られなかった。既習単語クイズは、回を追うごとに出题範囲が広がっていくので、得点が下がることも十分予想される。桑原他（2004）では、学習開始後、既習漢字クイズの得点が次第に下がり、既習漢字と新出漢字のクイズ得点差が大きくなる傾向が観察され、ほとんどの回でその得点差は有意であることが示されている。しかしながら、今回の結果はそのような傾向が見られなかった。この点については、既習単語クイズよりも、むしろ新出単語クイズの難易度に注目すべきであると考えられる。入門期の学習者にとって、第1言語と全く異なる音韻体系を持つ第2言語の単語を覚えるためには、その音に慣れることが不可欠であろう。さらに、今回のクイズでは、主として日本語の単語の筆記再生を用いたので、単語の音だけでなく対応する文字も正確に再生しなければならなかった。よって、ある程度の時間をかけて繰り返し練習することが必要であり、学習直後に行われる新出単語クイズで高得点をとることは、かなり困難であったと考えられる。一方、既習単語クイズは、新出単語で正答できなかったものを優先的に出題したため、学習者にとっては2回目（或いは3回目）の問題となる。しかも、以前のクイズで正解を書けなかったことが意識されていれば、正解を書ける確率は高くなるであろう。したがって、新出単語クイズの得点が下がると同時に、既習単語クイズ得点が下がりにくくなることで、既習単語との得点差がなくなり、さらには学習者Dのように、むしろ既習単語クイズのほうが得点が高くなる者も見られたと考えられる。

このように考えれば、正しく表記することも含めて単語の定着を図るために、既習単語クイズを行うことが非常に重要であったと言えるだろう。すなわち、本研究の既習単語クイズは、新出単語クイズで正しく書けなかった単語を比較的短い間隔で出題して書けるよ

うにすることと、新出単語クイズで正しく書けた単語について時間をおいて再度学習する機会を与えることと、2つの側面を持っていると考えられる。

次に、新出単語クイズの得点の推移について考察する。新出単語クイズは、学習者間の相関が高く、得点変動の傾向が似ていることが示された。また、クラスタ分析の結果と併せて時間軸でその傾向を解釈すると、学習開始直後は学習者全員の得点が高く、次第に得点下がってきて、得点が低い時期が続くことが示唆された。さらに、その得点の低い時期は、学習者間の差が顕著になる時期でもあり、その後、全体的に得点が上昇する傾向がうかがわれた。

このような得点の動きには、何が影響しているのだろうか。まず、第4回からの得点の下降傾向は、クイズの難易度が大きく上がったことによる可能性が非常に高い。第7課までは、ひらがながまだ定着していなかったため、与えられた選択肢の中から適当な単語を選ぶ形式のクイズであった。しかし、第8課からは、絵や英語単語に対応する適当な日本語を筆記再生する形式に変わった。よって、促音や長音などの特殊拍の有無、清音と濁音の区別のように細部まで正確に表記が定着していない学習者にとっては、得点下がるのが容易に予測される。

その後、第7回から第11回あたりまで得点がさらに下がる傾向にあり、学習者の中でも得点の高い者と低い者の差が大きくなる。これには、同時期にどのような文法項目を学習しているのかが影響している可能性が考えられる。この時期に学習する文法項目を見ると、第12課で形容詞の過去形、第14課から第18課までは、動詞のて形、ない形、辞書形などの重要で難易度が高い語形変化が多く含まれている。文法が複雑になり、覚えなければならない語形変化が増えれば、それらを整理して正しく再生できるようにするための時間が必要である。このように日本語学習全体の容量が増えたため、単語クイズの得点が低くなった可能性が考えられるのではないだろうか。しかし、後半になると、新しく学習すべき語形変化は少なくなり、それに代わって語彙的と言える文型が増えてくる。よって、初級前半で学習した語形変化が定着すれば、単語を覚えるために使用できる認知的な容量が増えるのではないだろうか。後半になってようやく得点に上昇傾向が見え始めることは、この解釈と矛盾しない傾向である。もちろん、このような解釈は、今回の調査だけで判断できるものではなく、今後もさらにデータを収集し、検証を行っていく必要がある。学習する文法・文型によって、単語学習に影響があるとすれば、それを予め把握しておくことで、それに対応したクイズの量、さらには授業のカリキュラムの調整が可能になるであろう。

う。したがって、この点については、検証を続けていく意味があると考え。

最後に、学習者の個人差について述べる。学習者の得点のパターンは、学習者によって大きく異なることが示された。特に既習単語クイズの成績において、それが顕著であった。このような個人差をクイズの問題構成に生かすことができるのは、CALL(Computer Assisted Language Learning)のような個別学習システムであろう。既習単語クイズ成績の個人差が大きいということは、個々の学習者によって正答できなかった既習単語クイズの問題が大きく異なるということである。したがって、各学習者の解答の状況に応じて、次回の既習単語クイズにどの問題を出題するかコントロールすることができれば、さらに効果が上がるはずである。CALLプログラム上で使用が可能な単語クイズを、授業のスケジュールとうまく組み合わせられれば、効率のよい学習が可能になると考える。

引用文献

Baddely, A. 1990 *Human Memory*, London: Lawrence Erlbaum Associates.

桑原陽子・玉岡賀津雄・坂野永理 2004 「漢字の読みの習得に関する時系列分析－入門期の非漢字圏日本語学習者を対象に－」『岡山大学留学生センター紀要』第11号, pp.47-58.

水野りか 2003 『学習効果の認知心理学』ナカニシヤ出版

Nation, I. S. P. 2001 *Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge: Cambridge University Press.

A Longitudinal Analysis for Vocabulary Acquisition by Beginning Japanese Learners

KUWABARA Yoko

The present study investigated the acquisition of the word for a long-term continuous period. The participants were five beginning Japanese learners who were studying at Fukui University. Vocabulary tests were conducted about twice a week over period of 105 days (including a winter holiday). The test consisted of forty words; 20 were from newly-learned and 20 were from already-learned words. The results indicated that the acquisition patterns of newly-learned words are different from already-learned words. The cluster analysis further revealed that some students could acquire word consistently well while a few students experienced some difficulties. In addition, the difficulties of grammar items the students were learning at the same time seemed to have some influence on the score of vocabulary test.

資料1 新出単語クイズ出題単語一覧

1課	先生	学生	私	大学	病院	会社員	研究者	みなさん	銀行員	電気
2課	鉛筆	雑誌	かばん	新聞	時計	かさ	机	辞書	本	かぎ
3課	階段	食堂	受付	部屋	会社	教室	くつ	電話	ネクタイ	お手洗い
4課	勉強します	おきます	寝ます	郵便局	図書館	昨日	今日	明日	日曜日	木曜日
5課	電車	飛行機	自転車	新幹線	駅	友達	家族	誕生日	去年	今週・先週
6課	食べます	会います	見ます	飲みます	聞きます	読みます	撮ります	写真	映画	手紙
7課	切ります	教えます・習います	借ります	パソコン	花	切符	お父さん	はさみ	はし	
8課	大きい・小さい	新しい・古い	寒い・暑い	難しい・やさしい	安い・高い	親切	静か	冷たい・熱い	おもしろい	忙しい・ひま
9課	好き	上手・下手	音楽	料理	歌	絵	子供	妻	夫(主人)	約束
10課	下	隣	上	後ろ	犬	喫茶店	公園	冷蔵庫	木	窓
11課	りんご	みかん	きって	葉書	封筒	外国	兄弟	両親	弟	
12課	夏	冬	春	季節	空港	海	雨	甘い・辛い	重い・軽い	早い・遅い
13課	泳ぎます	結婚します	散歩します	(手紙を)出します	疲れます	川	会議	市役所	広い・狭い	
14課	待ちます	手伝います	持ちます	見せます	降ります	つけます	開けます	閉めます	住所	地図
15課	座ります	立ちます	住みます	売ります	作ります	使います	歯医者	服	資料	床屋
16課	乗ります	あびます	長い	短い	足	頭	髪	目	耳	口
17課	忘れます	出張	残業	払います	脱ぎます	(薬を)飲みます	(宿題を)出します	出かけます	持って行きます	(風呂に)入ります
18課	弾きます	歌います	運転	趣味	捨てます	お祈り	国際電話	現金	予約	洗います
19課	そうじ	洗濯	登ります	泊まります	練習	ねむい	お茶	ゴルフ	パチンコ	すもう
20課	修理	直す								
21課	首相	大統領	アルバイト	負けます	勝ちます	不便	交通	意見	試合	無駄
22課	めがね	かけます	スーツ	着ます	ぼうし	かぶります	コート	セーター	生まれました	
23課	回します	歩きます	引越し	出ます	引きます	渡ります	角	信号	交差点	音
24課	連れて行きます	案内します	準備	説明	紹介	くれます	おじいさん	おばあさん	お菓子	(コーヒ-を)いれます
25課	(年を)とります	着きます	田舎	探します	遅れます	考えます	気分	参加	都合	申し込みます
27課	台所	自動販売機	声	ペット	波	見えます	できます	聞こえます	開きます	飼います
28課	小説	値段	品物	人気	番組	将来	形	売れます	踊ります	通います
29課	開く	閉まる	つく	消える	折れる	割れる	止まる	破れる	混む	壊れる
30課	植えます	相談します	飾ります	並べます	貼ります	掛けます	片付けます	人形	鏡	引き出し
31課	始まります	(試験を)受けます	卒業します	出席します	教会	動物園	大学院	結婚式	葬式	
32課	合格します	治ります	(かぜを)ひきます	晴れます	けが	空	風	北	南	
34課	みがきます	組み立てます	見つけられます	家具	矢印	線	茶色	黄色	折ります	塗ります
35課	咲きます	変わります	(〇を)つけます	ひも	海外	港	屋上	ふた	機会	拾います

* 斜体は選択式問題として出題

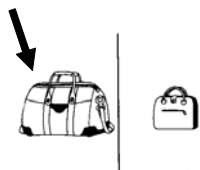
* < >は補充問題として復習クイズのみ出題

* 下線は絵を提示した2つの単語のうち、回答させた単語。

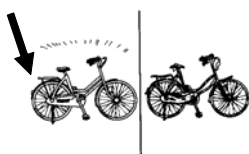
資料2 語彙クイズ例

★L.8 Vocabulary Quiz★

1. ()



2. ()



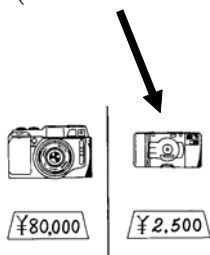
3. ()



4. ()



5. ()



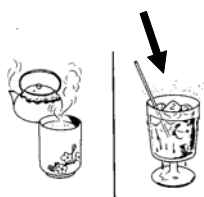
6. ()



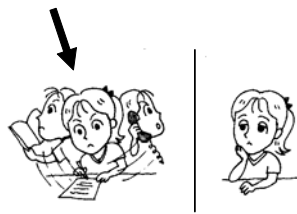
7. ()



8. ()



9. ()



10. ()

